

1. はじめに

室蘭市は、北海道南西部の内浦湾（別名、噴火湾）に面し、西に向かって突出した馬蹄形の半島で、懐に天然の良港を抱く工業都市です。1世紀以上の歴史を有する鉄鋼、石油化学やセメント、造船等の基盤産業に加え、2008年からは北海道と北関東以北15県のPCB廃棄物処理事業に取り組んでおり、環境産業とまちづくりを融合した「緑の工業都市」を目指しています。

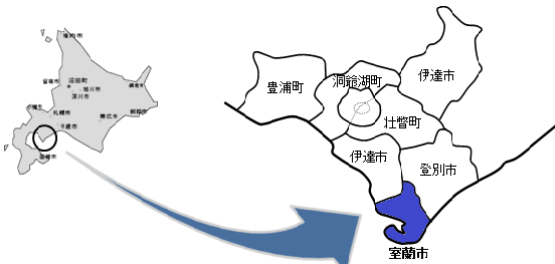


図1 室蘭市の位置図

2. 人口減少と老朽化危険空家屋等への対策

本市も人口減少が続いており1969年のピーク時には18万人だった人口が、現在は9万3千人と、およそ半減しています。世帯数の減少に伴い空き家も増加しており、放置されることで強風による飛散や倒壊事故、犯罪等の危険性など、周辺住民の生活環境に悪影響を及ぼすケースが増加しています。

表 室蘭市の空き家率と老朽危険家屋等通報件数

	2003年	2008年
空き家率(%)	13.6	15.6
老朽危険家屋等通報(延件数)	71	173

※2012年8月末現在の老朽危険家屋等通報件数は延249件

空き家等が放置され、管理不全な状態となることを防止するため、現在「空き家等の適正管理に関する条例」の策定作業を行っており2012年内の条例化を目指しています。所有者の責務を明らかにするとともに、「行政代執行」を含めた市の措置について、必要な事項を定めることにより、市民生活環境の保全や、安心安全のまちづくりを推進していきます。

3. 災害への新たな取り組み

東日本大震災の後、2011年度中に低地地区を対象とした海拔表示看板を、市内207ヶ所の電柱や広域避難場所にも設置

した他、津波避難ビル指定の検討に着手しています。2012年6月末、北海道より新たな津波浸水予測図が公表されたことを受け、7月末には広報紙により、市内の津波浸水予測図や津波の特性等を全戸に周知しました。

また、浸水が想定される地区の町内会に対し、津波避難計画策定のための協議を順次実施し、あわせて自主防災組織の拡大に向けた啓発にも取り組んでいます。

8月には、北海道石油コンビナート等防災本部（本部長：知事）による、地震・津波での火災を想定した防災訓練が市内の製油所にて実施され、市消防本部や海上保安部等、関係20機関が災害時の連携や消火活動の手順を確認しました。



図2 海拔表示看板

4. 住みよい地域づくりのために

本市は地形特性上、住宅地が沢ごとに形成されており、近年、核商業施設の閉店が各地区で発生し、地域生活に影響が広がっています。地域の町内会連合組織が、商業機能維持に向けた集会や署名活動、あるいは要望書の提出等の取り組みを行い、後継店舗の早期誘致等の成果をあげたケースもありました。

しかし、今後のさらなる高齢化社会の進行を見据え、買い物を含めた移動弱者対策は重要な課題であることから、現在、地域コミュニティ交通の検討を進めています。昨年度、先行検討地区として公共交通空白地2地区を選び、2012年8月からは地区部会を立ち上げ、次年度の実証実験等を目標に具体的な手法案の協議を始めたところです。

今後も地域の実情に合った持続可能な手法を、地域の住民と協働で作りに上げていく考えです。

5. おわりに

今年は、開港140年市制施行90年の記念の年を迎える節目の年であり、マチの歴史を再認識し、夢と希望のあふれる未来を次代に引き継いでいくことが大切であります。今後も本市ものづくりの根幹を担う基盤産業や室蘭工業大学、また地域課題の解決に取り組んでいる市民との様々な「縁-en」を繋ぎ、産学官民が連携した室蘭を目指します。